

森づくり通信

No.58



2020年(令和2年) 12月 15日(火)発行

発行/金沢森づくりサポートバンク事務局

920-1301 金沢市永安町77番地(金沢市林業振興協議会内)

TEL:076-229-1699 FAX:076-229-1172



難を転じる南天

あれよあれよと思う間に東京オリンピックイヤーであったはずの2020年も余す所わずかになってきました。

1月に新型コロナという感染症が、中国武漢で猛威を振るっているとの報道があり、また中国かと思っただけで対岸の火事のように感じていましたが、その後全世界に感染が広がりとんでもない状況になっています。

私どもの関連する活動にも支障が出ましたが、来年こそは沈静化し通常通りの活動ができる事を願って止みません。

●年末年始のお知らせ●

金沢森づくりサポートバンク事務局の業務は、年末は12月28日(月)まで、年始は1月4日(月)からとなります
お問い合わせやご連絡の際は、よろしくお願い致します

9/19(土) 内川小学校出前講座



内川小学校緑の少年団児童29名は、学校周辺に生えている孟宗竹を使い竹のベンチを作ることにチャレンジしました。



まず、運動場の横の里山から竹を伐りだし、枝払いをしてから校舎に運びベンチづくりに取りかかりました。



ベンチの足をノコギリで切って座面は竹を4本に割り、割り面をハンドサンダーできれいに仕上げ、角材で仕上げた土台に乗せました。



座面は黒のシュロ縄で編み込み参加した児童のネームプレートも取り付け、みんなよく頑張りました。

9/26(土) ダンロップの森づくり



ダンロップタイヤ北陸の社員有志11名は、キゴ山にあるダンロップの森の整備を行いました。



作業はカラマツ林の下草刈りチームとカラマツの苗の植栽チームの2班に分かれて行いました。



下草刈りは刈り払い機で行うので、刈り払い機のキックバックなど安全面の説明をしてから作業に入りました。



植栽チームには苗の植え方の実演説明を行い、泥で埋まっていた散策路の階段の整備も行いました。来年は通常通りの活動ができる事を祈っています。



森づくり出前講座 実施報告



森づくり活動や森林の講座などに「森づくり専門員」を派遣しています。

森林の役割や森づくりの進め方などについて、森づくり専門員が説明するとともに、森の中の体験学習などを行っています。

例えば小学校の総合学習の時間に森林環境教育や森林の公益的機能についての話や、森づくり活動の際、現地に出向いて技術指導をするなど、様々なテーマでの出前講座を実施しています。

森づくり出前講座の問合せ・申込みは 金沢市 森林再生課 TEL:076-220-2217 までお願いします

9/27 (日) 宮野の森づくり

10/17 (土) 北陸電力の森づくり



金沢市と森づくり協定を結んだ宮野の森の整備に宮野地区住民10名が参加し、三谷里山交流広場に隣接した森の散策路の草刈りを行いました。



最初に宮野の森をどんな形で整備していけばよいのかなど簡単に打合せを行い、刈り払い機で作業を行いました。



今後の計画は竹林整備で出た竹をチップにして散策路に敷く予定です。



北陸電力は水の恵みにありがとう!「森に恩返し活動」の森林保全活動を継続的に行っています。



今回は社員41名が参加し、金大角間キャンパス内の北電の森で、コナラやクヌギを植えた場所の草刈りと新たに苗を75本植栽しました。



活動に慣れてきたこともありスムーズに作業が進み、検温などのコロナ対策も取られ行いました。

10/18 (日) 角間の里山草刈りプロジェクト

11/22 (日) 四十万みんなの畑森づくり



金沢大学の山崎学長の提案で、草刈りを行う事は里山保全への理解を深め、教職員と学生がともに汗を流し体験することで人間力が鍛えられるとの趣旨に賛同した学生65名がキャンパス内の里山の草刈りをひたすら行いました。



例年では作業後昼食を兼ねて交流会を行っていましたがコロナ対策でお弁当の配布になりました。



タケノコの産地として整備されてきた四十万の里山も生産者の高齢化も進み、単独での保全整備が行き届かなくなってきました。



みんなの畑の会では地域住民とボランティアを募り竹伐りをメインに里山の資源の活用と保全を維持する活動を開始し、当日は45名が竹伐り、破碎、階段づくりなど多岐にわたり作業を行いました。



11/29(日) 四十万みんなの畑の森づくり



四十万のあいぞめ公園を会場に、先週の竹林整備で出た竹を利用し竹馬や竹ぽっくり、竹ボーリングを作り、希望者には木箱のプランターなどの工作で資源の有効活用と市民間の交流を兼ねてイベントを開催しました。

約65名の親子が参加し、ノコギリやカナヅチなどの道具を使い作品を作りました。みんなの畑の会で育てたサツマイモを炭火で焼き芋にしてのふるまいもあり、作った竹馬などで楽しく過ごしました。

森づくりの話 ⑳

育てた木は収穫して製材所に運び製材して初めて製品として使えるようになるわけですが、今回は少し専門的になりますが現場での木材の収穫についてのお話をしたいと思います。

伐った木は重たくて長くて丸く、その丸太をいかに安全に効率よく集めるかが大事な要素になってきます。40～50年ほど前までは木を伐るのにチェーンソーが活躍した頃で、機械らしい機械といえば策道架線が思い浮かぶぐらいです。それが現在では林道や作業道を敷設しトラックで搬出するのが一般的で、あらゆる場面で機械化が進んできました。

機械は大きく分けると車両系林業機械と架線系林業機械になります。車両系では伐倒、枝払い、玉切り(常寸の丸太に切る)、集積ができるハーベスタ(伐倒造材機)や現場に集材した木の枝払いと玉切りが行えるプロセッサ(造材機)の導入が多く、この2台を組み合わせることでかなりの作業効率と安全性が上がったといわれています。機械的にはベースマシンと呼ばれる土木分野で使われる油圧ショベルが多く使われ、先端のアタッチメントを付け替えることで牽引集材などのいろいろな作業をこなすことができます。

また、玉切りした丸太を荷台に積んで運搬するフォアローダーやトラックへの積み込みや荷下ろし、はい積み(丸太を整理して積み上げる)、木寄せで活躍するグラブプルなどがあります。

金沢森づくりサポートバンクのホームページをご覧ください！

「金沢森づくりサポートバンク」

<http://kanazawa-moridukuri.com/index.html>

森づくりイベントの案内や活動報告などを掲載し、道具の貸し出し申請書や会員登録用紙のダウンロードなどもできるサイトとなっています。

貸し出しする道具の種類が分かるようになっています。

森づくり通信を見ることができます

サイト内の「森づくり通信の発行」欄に、創刊号～最新号までの情報があります。

インターネットでの森づくり通信の閲覧や、ダウンロードができます。

また、森づくり団体が実施されている活動は、お知らせコーナーでご紹介しています。



◎伐木等業務(チェーンソー)特別教育が開催されます

登録会員の方には受講に対しての支援を行っていますので、希望される方はこの機会に是非受講して下さい

※必ず金沢森づくりサポートバンクにお申込み下さい。(直接申し込みは補助対象になりません)

◎伐木等業務(チェーンソー)特別教育

- 【日時】 R3年1月13日・14・15日(水・木・金)
- 【場所】 石川森林文化ホール 金沢市東蚊爪1-23-1 (電話 076-238-7198)
- 【申込】 R2年12月22(火)締め切り 金沢森づくりサポートバンク事務局 (電話 076-229-1699)

金沢林業大学校第7期(令和3年度)研修生を募集します！

金沢市では、中山間地の活性化・次世代の森林施業と林産物生産等の担い手を育成するため、金沢林業大学校を運営しています。

実習中心の研修で、実践的なスキルが身に付けることができます。

受講料は無料(一部教材費など実費負担)で、先進の経営者や生産者から「生きた林業」を学ぶことができます。

さらに、第7期から林業への就労を目指す方向けに「林業専門コース」を新設しました。このコースでは、林業に必要な資格を無料で取得できるほか、金沢市が林業事業体への就職をサポートします！募集チラシについては近日中に送付しますので、ご興味のある方は是非ご応募ください。ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

金沢市 農林水産局 森林再生課
tel:076-220-2217 fax:076-222-7291
e-mail:nourin_mori@city.kanazawa.lg.jp

編集後記

「1年」

年々過ぎ去る時間が早く感じられるようになってきましたが、ある人に言わせると生きれば生きるほど分母の生きている時間が大きくなってゆくの、1年は相対的に短く感じるようになるとの事です。

今年もコロナに始まり緊急事態宣言、GOTO トラベル、首相交代、アメリカ大統領選挙など激動の1年だったと振り返っています。

友人から石川県はクマが頻繁に出没している報道があるが大丈夫なの？などの連絡ももらいますが、根拠もなく「大丈夫、大丈夫」と言っています。

山のどんぐり類が凶作で町(町です)に食料を求めて降りて来ているとの報道がなされていますが、あくまで私見で、どんぐりの不作の影響は大きいと思いますが天敵のいないクマの個体数が増え、クマ1頭のテリトリーはかなりの広さが必要で、新たに生まれたクマは自分のテリトリーが確保できずに町に出没するようになったのではないのでしょうか。

町に来ればたわわに実った柿に目が行くのは当然で、楽しんで食べていければ誰でもそうするに違いないと思います。

金沢市森づくり専門員 加藤 八郎

